

平成24年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書  
（研究成果公開発表（B））

平成24年10月12日

文 部 科 学 大 臣 殿

		課題番号	2	4	5	4	0	0	1
主催団体 所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷2-19-7 ブルービルディング2階								
主 催 団 体 名	一般社団法人 日本ロボット学会	代表者職名	会長						
		代表者氏名	川村 貞夫						



シソホシウム・ 学術講演会名	リアルロボットテクノロジーシンポジウム				
実施主体 (支部等)	第30回日本ロボット学会学術講演会 実行委員会	代表者職名	実行委員長		
		代表者氏名	田中 孝之		
開催日	平成 24年 9月 17日(月)～平成 年 月 日( ) (1日間)				
会場名	札幌コンベンションセンター		開催地：札幌		
参加者数 (※交付申請書に記載 した参加予定者数)	1,500 人				
	(2,000 人)※				
費目別収支決算表					
実支出額の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他
	1,400,000 円	592,093 円	1083 円	13,000 円	793,824 円
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他
	1,400,000 円	100,000 円	100,000 円	200,000 円	1,000,000 円

<p>シンポジウム・学術講演会の目的</p>	<p>ロボットに対するイメージと実際の乖離を埋め、一般にも実際のロボットシステム、ロボット技術に対する正しい理解を促すとともに、ロボット工学のバックグラウンドとなる理工学の重要性を広めることを目的とした。日本ロボット学会では、実社会の発展に大きく貢献した実用性の極めて高いロボットシステムやロボット技術に対して、これまでに実用化技術賞を贈賞することで、実社会へのロボット普及を奨励している。既に実用化されているロボットシステム、ロボット技術が実装された実システムを展示・実演し、併催の日本ロボット学会第30回記念学術講演会と連携することで、その背景にある学術的な説明を加えて、一般市民に分かり易く、実社会に役立っているロボットを紹介した。</p>
<p>シンポジウム・学術講演会の概要</p>	<p>【実ロボットシステム・ロボット技術展示・実演】  以下の実ロボットシステム・ロボット技術を展示、実演した。  (1) 産業用ロボット MELFA (三菱電機株式会社)、(2) ヒューマノイド HR P-4C ( (独) 産業技術総合研究所 )、(3) 災害対応ロボット「Quince」 ( 千葉工業大学 )、(4) スカイクライマー (株式会社大林組)、(5) 水圧鉄管内面点検装置 (北海道電力株式会社)、(6) 高速スキャニング技術 ( 株式会社トプコン )  、(7) ドライビングシミュレータ ( 株式会社岩崎 )、(8) UAV自律飛行画像撮影システム ( ジオサーフ株式会社 )、(9) 全方位レーザー LiDAR カメラ「Velodyne」 ( 株式会社アルゴ )、(10) 食事支援ロボット「マイスプーン」 ( セコム株式会社 )、(11) 触覚センサと RIBA ( (独) 理化学研究所 RTC・東海ゴム工業株式会社 )、(12) パロ ( (独) 産業技術総合研究所北海道センター )  、(13) 電気式人工喉頭「ユアトーンⅡゆらぎ」 (株式会社電制)、(14) スマートスーツ・ライト (株式会社スマートサポート)、(15) イカ釣りロボット (株式会社東和電機製作所)、(16) 電気自動車コンバージョン EV (株式会社 EV ファクトリー)、(17) ロボットアリーナの紹介 (室蘭工業大学)、(18) First Lego Leagueの紹介</p> <p>【ロボットを支える理工学セミナー】  ロボットシステム、ロボット技術を支える理工学の学術的な説明を、各出展者の協力を得て、デモンストレーションや体験を交えて、市民向けに分かり易く解説した。</p> <p>報道機関9社の協力により、当日の様子がテレビ、新聞等で報道された。</p>

<p>主催団体の 事務 連絡者</p>	<p>〒113-0033 東京都文京区本郷2-19-77 ルビィビルディング 2階 TEL: 03-3812-7594  所属・職名 一般社団法人日本ロボット学会・事務局長 (内線 なし )  氏名 細田 祐司 FAX: 03-3812-4628  E-mail: secretary@rsj.or.jp</p>
-----------------------------	--